

授業概要

大正期の短篇小説を例に、日本の近代小説の読み方を学びます。

小説を読むということは、これまでの学校教育で学んできた方法とはかなり異なる、別のスキルが必要になります。それらを具体的な小説を例に、演習形式で学んでいきます。

毎回、テキストに収録された小説を読んでそれを授業内で報告、発表する形をとり、受講者全員でともに考え、小説を読むとはいかなることかを学び、読みの可能性を拡げていくよう指導します。

人と対話することが非常に大事な授業になります。

授業計画

以下の計画は受講者人数によって変更があり得ます。

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	発表方法について
第 3 回	小説を読む方法
第 4 回	田村俊子「女作者」 についての発表および討議
第 5 回	上司小剣「鱧の皮」 についての発表および討議
第 6 回	岡本綺堂「子供役者の死」 についての発表および討議
第 7 回	佐藤春夫「西班牙犬の家」 についての発表および討議
第 8 回	里見弴「銀次郎の片腕」 についての発表および討議
第 9 回	広津和郎「師崎行」 についての発表および討議
第 10 回	久米正雄「虎」 についての発表および討議
第 11 回	宇野浩二「屋根裏の法学士」 についての発表および討議
第 12 回	岩野泡鳴「猫八」 についての発表および討議
第 13 回	葛西善蔵「椎の若葉」 についての発表および討議
第 14 回	内田百閒「花火」 についての発表および討議
第 15 回	まとめ
第 16 回	課題提出

到達目標

- ① 小説を読み解くとはどのようなものかを知り、読むことの可能性を上げる。
- ② 他者と意見を交換させる中で、自分の考えを適切に伝え、建設的な意見交換ができるようになる。

履修上の注意

授業内で受講者が最低 1 回は発表を行い、毎回意見交換する演習の形を取るため、主体的な参加姿勢が必要になる。履修にあたってはくれぐれも注意すること。発表者以外は、毎回発表される小説の内容について事前に読んできて、授業の最初にコメントを記すことになる。

- ① 欠席しないこと。特別の理由がない限りすべて出席するのが前提である。
- ② 授業で指示された小説を必ず読んでくること。
- ③ 受講者の発表を主体的に聞き、求められたら必ず発言すること。

日本文学講読（近現代）Ⅱと連続した内容だが、どちらか一方の受講でも可

予習・復習**【予習】**

- ・毎回の授業で指示された小説を読んで、考えたことを報告できるようにすること。
- ・自らの発表担当の時には定められた調査考察を行い、発表資料を作成しておくこと。

【復習】

- ・授業での議論を踏まえ、小説を読み直すこと。

評価方法

授業課題（コメント・発言・受講態度）を 40%、授業内発表を 30%、期末レポートを 30%として評価する。

テキスト

- ・教科書名：『日本近代短篇小説選 大正篇』
- ・出版社名：岩波文庫